

東北近代文学事典

日本近代文学会東北支部 編

編集委員… 須藤宏明（編集代表）
後藤康二

佐藤伸宏
高橋秀晴
竹浪直人

豊泉豪
松本博明

森岡卓司

編集協力… 日本現代詩歌文学館

青森県近代文学館

青森、岩手、秋田、宮城、山形、福島の

東北6県の近代文学の達成が一望できる

待望の大事典、遂に刊行！

多彩で豊かな

文化風土をもつ

東北地方。

いまこそ、ゆかりの

作家・作品を集成し、

東北から日本文学の

豊穣を発信する。

●推薦のことば

阿毛久芳

都留文科大学教授

『東北近代文学事典』 に寄せて



著者

阿毛久芳

都留文科大学教授

二〇一一年三月十一日の東日本大震災の際、沿岸の市街や
林、田畠を襲うと黒い大津波の情景が脳裏から消えない。
失われた多くの命を思うと肅然とした気持になる。自然の猛
威とはこういうものなのか、改めて知らされた思いである。

……「ヒド（テ）リノトキハ／ナミダヲナガシ／サムサノナ
ツハ／オロオロアルキ」という宮沢賢治の「雨ニモマケズ」
の一節が痛切に響く。

私の卒業論文は「芥原潤太郎研究」と題したもので、題題
は「福士幸次郎との対応におけるその発生・新生感」だった。
潤太郎の「月に吠える」と幸次郎の「太陽の子」との共通性
と異質性を論の核とした。国会図書館で「福士幸次郎著作集
上下巻」を夢中で書き写していたことが忘れない。青
森出身の幸次郎は音数律論、『原日本考』の古代文化論のほか、
地方主義、伝統主義を唱えるとともに方言詩も試み、高木恭
造へとつながる。東北の風土と幸次郎の詩業は強烈に結びつ
いている。

『東北近代文学事典』は近代から現代に至って、この厳しい
東北の自然だからこそ生まれた文学者やその魅力に引き付け
られたゆかりの文学者、また変動する時代状況の中につづけ
行われた多彩な文学活動などに新たな光を当てるものである。
東北を代表するような文学者はもちろんのこと、まだ一部に
しか知られていない芽が数多く埋もれている。そのような芽
がこの事典の光によって伸び出すことを期待している。



風土の「不易」と 時代の「流行」

岡田日郎

俳人・俳人協会副会長・俳句文学館図書室長



東北で開花した 近代短歌

條弘

歌人・評論家・日本現代詩歌文学館館長



江戸時代元禄二年に芭蕉は「奥の細道」により東北地方を
訪れた。松島、象潟、月山登山まで果たした。その壯舉は近
代の俳句にも多大の影響を与えた。芭村も止園子規もそのほ
か多くの俳人が東北を訪ねるいしすえとなつた。私も芭蕉の
月山登山とほぼ同じ季節を遙んで登つた。まさしく「雪霧山
氣の中に冰雪を踏みてのほこと八里」であり、その登山道
も登山道から眺める山も谷も芭蕉のころとほとんど変わりは
ないと感じた。それが風土の「不易」である。

一方、近現代の俳句の革新は正岡子規らにより東星下谷の
根岸の里から興つた。秋田では俳句革新に呼応して明治三十
三年に石井露月が「俳星」を主宰した。その後、明治末から
大正にかけて新傾向俳句、昭和初期には新興俳句、戦後には
社会性俳句、前衛俳句が興ると東北各地でもその時代の「流
行」の波をかかり、さまざまな俳句結社が生まれ、多くの俳
人が新しい時代を築いた。

本事典は、主に日本近代文学会東北支部に所属する研究者
による執筆であり、その地に居住してこそわかる風土の「不
易」と時代の「流行」について新しい考察と新発見が明らか
にされているといつていい。

研究者はもとより一般の俳句実作者をはじめ多くの方々に
本事典が愛用される日が来ることを期待したい。

東北文学の
新しき羅針盤

高橋克彦
作家



豊饒な鉱脈への
新しい道案内

中島国彦

早稻田大学教授



多くが誤解していると覺つか、こういう事典は決して過去の事績を單に並べて顯彰したり紹介するものではない。反対に未来こそを明らかにする思いから生まれたものなのだ。今、文学になにが求められているか？　まったく見通せない時代となつてゐる。文学が人の心の程ではなくなつたときえ感じじる。文学を志す者たちは霧深い海原に漂う小舟の中に居て、どちらに漕ぎ出せばいいのか不安と絶望を抱えている。しかし、文学が大いに意氣軒昂だった時代にも実は変わらぬ不安と絶望は一人一人にあつた。そしてこの事典の中にはその霧深い海原を見事に渡りきつた人たちの冒險譚が網羅されている。彼らがなにを光として自指し、自らをどのように鼓舞して權の力としたかが織られてゐる。知ればそれは新たな希望や勇氣となり、迷いを晴らしてくれるのだ。いつたいどれほどの仲間が文学の海に雄々しく、たつた一人で漕ぎ出していくことだろう。文学は人が一生を懸けるに足るものだ。文学を志す人たちよ、自分は一人ではない。この新しく編まれた羅針盤を手に、海の彼方を目指して欲しい。それこそが編者たちの一番の願いなのだと思う。かつての東北にはこれだけの冒險者たちが居た。

の鉱脈が埋蔵されている気がする」という、まるで詩句のような一節を発見し、まだ行つたことのなかった「東北」の光景を思い浮かべた。

村野四郎の文章は、「その鉱脈の一つの露頭が宮沢賢治だった」と続き、その新しい露頭が村上昭夫だとするのだが、それは何も「岩手」や、詩歌の世界に限つたことではないだろ。青森の太宰治、岩手の石川啄木や民俗的世界、秋田の文学による人間解放の動き——北から辿つて行けば、「東北」の文学の厚みは、測り知れない。「東北」出身の文学者、「東北」に一時住み、生涯の転機を迎えた文学者は、枚挙にいとまがない。「東北」という土地が生み出す想像力は、強い緊張から甘美な世界に至るまで、さまざまなイメージを育んでくれる。そして、三月の体験がそこに加わり、言葉の世界の重みは、わたくしたちの「生」と緊密につながる。

そうした豊饒な「東北」の文学世界に、新たな道案内が生まれる。日本近代文学会東北支部が、新資料を駆使しつつ、その総力を結集してまとめ上げたこの新しい成果を受け止め、読み尽せぬ「東北」という宇宙に、しっかりと眼を注いで行きたい。

昭和五十年代に日本近代文学館理事長の小田切基を中心とした「日本近代文学大事典」が世に出された。福垣達郎、紅野誠一郎など日本近代文学会に属する多くの研究者たちが、編集作業をおこなった西期的な書物であった。爾来、四十年が経つ。

り上げ、さらに、東北文学に特徴的な関連項目を挙げることで、「東北における文学」「文学における東北」の独自性・風土的特色が立ち上がるよう、編集をおこなつた。

その間、日本近代文学研究はこの事典を主力に進展を遂げてきました。同時に、多くの新人作家が優れた作品を書き上げ、研究においては多くの新資料の発見があり、埋もれていた作家の再評価がなされてきました。「日本近代文学大事典」が今なお土台であることに変わりはないが、こうした現状に対応できない部分も出てきているのは致し方ないことであろう。文学は流動体であり、文学史は増殖する。

このような状況の中、日本近代文学会東北支部で、東北を中心とした文学事典を編集しようではないかという話合いが持たれたのは、平成二十一年の九月、仙台においてであった。それ以来、三年の年月をかけて編集作業を重ね、今、ここに『東北近代文学事典』を上梓する運びとなつた。

東北の編集文、各地方の教育機関、大学や監修といった若名作家をめぐる人々などのテーマで項目を立て、東北の文学を包括的に捉えるよう努めた。

●編者のことば

●編者

その間、日本近代文学研究はこの事典を主力に進展を遂げてきました。同時に、多くの新人作家が優れた作品を書き上げ、研究においては多くの新資料の発見があり、埋もれていた作家の再評価がなされてきました。「日本近代文学大事典」が今なお土台であることに変わりはないが、こうした現状に対応できない部分も出てきているのは致し方ないことであろう。文学は流動体であり、文学史は増殖する。

このような状況の中、日本近代文学会東北支部で、東北を中心とした文学事典を編集しようではないかという話合いが持たれたのは、平成二十一年の九月、仙台においてであった。それ以来、三年の年月をかけて編集作業を重ね、今、ここに『東北近代文学事典』を上梓する運びとなつた。

東北の編集文、各地方の教育機関、大学や監修といった若名作家をめぐる人々などのテーマで項目を立て、東北の文学を包括的に捉えるよう努めた。

本書「東北近代文学事典」は、東北支那という日本近代文学学会の一地域の研究集団の結束のもと、従来の研究成果に加えて、埋もれていた作家、新しい文学現象を取り入れた事典である。ここにいう「東北」とは、青森・岩手・宮城・秋田・山形・福島の東北六県を指し、「近代」とは明治期から平成に至る現時点までを指す。明治～昭和期の文豪から、現在活躍中の作家まで、八〇〇名を越える東北ゆかりの文学学者を探

がると思つてゐる。
この「東北近代文学事典」が、日本近代文学研究に、ひいては文学といふ営みそのものに資するところがあればと願つてゐる。

編委會一回

広島県 現代文学事典

岩崎文人 [編]

文学史上に残る文豪から現在活躍中の作家まで、多彩な文学風土と深く複雑な歴史をもつ広島ゆかりの作家、文人200人超を紹介。また「西」「安藝文学」「石橋」「ふくやま文学」などの同人誌・文芸雑誌を詳説するほか、「尾道と文学」「呉・江田島と文学」「原子爆弾と文学」など、広島ならではの項目を多数収載。

A5判上製・512頁 本体12,000円+税 ISBN 978-4-585-06068-0 C3590



福岡県文学事典

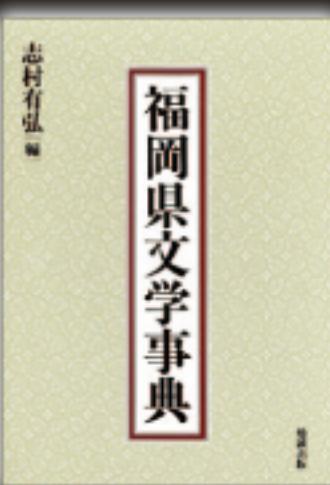
志村有弘 [編]

志村有弘

福岡県文学事典

福岡県ゆかりの文人、作品、雑誌、思想を網羅し、文学研究者、郷土史家、雑誌同人、必備の大事典、遂に刊行。
五木寛之「青春の門」、岩下俊作「無法棒の生」、火野葦平「花と魂」、松本清張「或る『小倉日記』伝」……。
多くの名作を生み出した福岡の文学的土壤をあますところなく集成した大事典。

菊判上製・800頁 本体12,800円+税 ISBN 978-4-585-06067-3 C3590



北海道文学事典

志村有弘 [編]

四六判上製・350頁 本体4,200円+税 2013年4月刊行予定

有島武郎、石川啄木、井上靖、国木田独歩、小林多喜二、森木登作、武田泰淳、小畠山博、森本鶴……。北海道に繋がる文学を語った200名近い作家を紹介するほか、「オホーツク叙事詩」「コシキマイン記」「銀鮭説話」「ひかりつけ」などの名作を解説。北海道の文学をコンパクトに凝縮した1冊。

菊判上製・800頁 本体12,800円+税 ISBN 978-4-585-06067-3 C3590

東北近代文学事典

日本近代文学会東北支部 [編]

ISBN 978-4-585-20016-1 C3590

B5判上製・カバー装

約800頁 本体15,000円+税

番

広島県現代文学事典

岩崎文人 [編] ISBN 978-4-585-06068-0 C3590

A5判上製・512頁

本体12,000円+税

番

福岡県文学事典

志村有弘 [編] ISBN 978-4-585-06067-3 C3590

菊判上製・800頁

本体12,800円+税

番

北海道文学事典

志村有弘 [編] 2013年4月刊行予定 ISBN 978-4-585-20019-2 C3590

四六判上製・350頁

本体4,200円+税

番

お名前

ふりがな

】

ご住所

販店印

勉誠出版

〒101-0051 東京都千代田区神田神保町2-20-6 website・http://benshi.jp
Tel・03-5215-9021 Fax・03-5215-9025 E-Mail・info@benshi.jp

＊書店さまは弊社次第お客様にご連絡ください

※ご記入いただいた個人情報は、ご注文書類の発送、お支払い確認などの連絡および、ご希望いただいた方への刊行案内をお送りするために利用し、その目的以外での利用は致しません。